

名前： 伊藤誠一郎
最終学歴： 慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程 満期退学
職名： 教授
学位： 博士（経済学）（2021年4月取得）
担当科目： 経済学説史、金融論、経済学入門、専門演習、専門基礎演習
所属学会： 経済学史学会、信用理論研究学会、日本イギリス哲学会、社会思想史学会
The European Society of the History of Economic Thought
専門分野： 経済思想史

業績一覧

研究業績

論文

- ・修士論文「チャールズ・ダヴナントの“Credit”論—『信用』概念とその政治的コンテクストをめぐって—」1991年3月。
- ・「チャールズ・ダヴナントにおける統治と経済」『三田学会雑誌』85巻2号、pp.195-216、1992年7月。
- ・「チャールズ・ダヴナントの『信用』論—その特徴と変容—」『三田学会雑誌』87巻4号、pp.92-112、1995年1月。
- ・「経済政策史上の『ケインズ革命』—その論争史と展望—」『大月短大論集』第27号、pp.112-134、1995年11月。
- ・「政治算術の継承に関する一考察—ベイコン、ペティ、ダヴナント—」『三田学会雑誌』90巻1号、pp.89-109、1997年4月。
- ・「政治算術とホッブズの時代」『経済学史学会年報』第41号、pp.80-89、2002年、5月。
- ・‘Charles Davenant’s Politics and Political Arithmetic’, pp.9-36, *History of Economic Ideas*, vol.13, no.1, 2005, July.
- ・‘The making of institutional credit in England, 1600-1688’, pp. 487-519, *European Journal of the History of Economic Thought*, vol.18:4, 2011, October.
- ・「経済ナショナリズムと国家理性論についての再検討 - 『貿易の嫉妬』にみるリアリズムの意味 - 」『経済学史研究』第53巻2号、pp. 76-99、2012年1月。
- ・‘Registration and credit in seventeenth-century England’, pp. 137-162, *Financial History Review*, vol. 20:2, 2013, August.
- ・‘The Japanese society for the history of economic thought’, pp. 22-9, *Information Bulletin of the Union of National Economic Associations in Japan*, no. 33, 2013, (December 配送).
- ・「水田洋監訳・杉山忠平訳『国富論』における credit の訳語について」『アダム・スミス

の会報』 No. 82、 pp. 1-7、 2015 年 3 月。

・ ‘Mercantilism reimagined or redefined?: A Review of *Mercantilism Reimagined: Political Economy in Early Modern Britain and its Empire*, edited by Philip J. Stern and Carl Wennerlind (New York: Oxford University Press, 2014, ix, 404 pages)’, 『経済学史研究』 第 58 卷 1 号、 pp. 139-148、 2016 年 7 月。

・ ‘The Japanese society for the history of economic thought’, pp. 25-35, *Information Bulletin of the Union of National Economic Associations in Japan*, no. 38, 2018, (December 配送).

・ 「学会展望 貨幣・信用について今語られていること、昔語られていたこと」 『イギリス哲学研究』 第 46 号、 75-82、 2023 年 3 月。

単著

English Economic Thought in the Seventeenth Century: Rejecting the Dutch Model, Routledge, 2020.

共著

・ 「17-18 世紀の貨幣価値論の系譜について」 池田・大友・佐藤編 『経済思想にみる貨幣と金融』 三嶺書房、 pp.61-82、 2002 年 3 月。

・ 「「重商主義」の時代 - 貧困と救済」 小峯敦編 『福祉の経済思想家たち』 ナカニシヤ出版、 pp.3-12、 2007 年 4 月。

・ 「レトリックを超えて-近代初期イングランドの古典修辞学と政治算術-」 田中秀夫編 『啓蒙のエピステーメーと経済学の生誕』 京都大学学術出版会、 pp.99-128、 2008 年 11 月。

・ ‘The ideal statesman: the influence of Richelieu on Davenant’s political thought’, in H.D.Kurz, T. Nishizawa, and K. Tribe eds., *The Dissemination of Economic Ideas*, Edward Elgar Publishing, 2011, November, pp. 41-64.

・ 「草創期のイギリス経済思想」 喜多見・水田編 『経済学史』 ミネルヴァ書房、 pp. 23-34、 2012 年 2 月。

・ 「一七世紀イングランドのトレイド論争 - オランダへの嫉妬、憧れ、警戒」 田中秀夫編 『野蠻と啓蒙 経済思想史からの接近』 京都大学学術出版会、 pp. 79-100、 2014 年 3 月。

・ 「17 世紀イングランドにおける信用と基金」 坂本達哉・長尾伸一編 『徳・商業・文明社会』 京都大学学術出版会、 pp. 33-58、 2015 年 3 月 31 日。

学会報告論集、科研費報告書

・ 「レトリックを超えて - 修辞学と政治算術」 pp.189-194 『経済学史学会大会報告論集 第 69 回全国大会』、経済学史学会、2005 年 5 月。

- ・ ‘The making of institutional credit in seventeenth century England’, 21p, *Proceedings, History of Economic Thought Society of Australia*, 2005, July.
- ・ ‘Quest for a ‘good’ fund – a prelude to the land-bank controversy’, pp.274-291, *Paper and Proceedings of the 19th HETSA Conference*, 2006, July.
- ・「レトリックを超えて - 近代初期イングランドの古典修辞学と政治算術 - 」田中秀夫編『啓蒙のエピステーメーと経済学の誕生』科研費基盤研究費 A 報告書、2007 年 3 月
- ・ ‘Interest controversy in its context’, pp.321-343, *HETSA2008 Conference Papers*, 2008, July.
- ・ ‘Law reform, registration and credit in seventeenth century England’, pp. 383-421, *HETSA2009 Proceedings of the 22nd conference of the History of Economic Thought Society of Australia held at the University of Notre Dame Australia, Fremantle 14-17 July 2009*, vol.II.
- ・ ‘Continuity and discontinuity – the early stage of the land-bank controversy’, 24p., *HETSA2010 Proceedings of the twenty-third annual conference of the History of Economic Thought Society of Australia*, 2010.
- ・「The ideal statesman: the influence of Richelieu on Davenant’s political thought」田中秀夫編『啓蒙思想と経済学形成の関連を問う-グローバルな視点から-』科研費基盤研究費 A 報告書、2010 年 3 月。
- ・セッション趣旨「初期近代グレートブリテンにおける信用の制度化をめぐる諸議論」p.100 『経済学史学会大会報告論集 第 77 回全国大会』、経済学史学会、2013 年 5 月。
- ・「17 世紀イングランドにおける信用と基金」 pp.101-106 『経済学史学会大会報告論集 第 77 回全国大会』、経済学史学会、2013 年 5 月。

辞典

- ・「政治算術」、「T・ウィルソン」経済学史学会編『経済思想史辞典』丸善、それぞれ p.33 と p.230、2000 年、6 月。
- ・「ペティ、W」、「マン、T」日本イギリス哲学会編『イギリス哲学・思想辞典』研究社、それぞれ p.652 と p.664、2007 年、10 月。
- ・「政治算術」、「帝国と植民地」社会思想史学会編『社会思想史辞典』丸善出版、2019 年、1 月。

書評

- ・「書評 大倉正雄『イギリス財政思想史』」『経済学史学会年報』40 号、pp.93-4、2001 年 5 月。
- ・「書評 田中正司『経済学の生誕と『法学講義』』」『イギリス哲学研究』第 28 号、pp.95-8、2005 年 3 月。
- ・「書評 Jonathan Gil Harris: *Sick Economies*」『経済学史研究』47 巻 2 号、pp.156-8、

2005年5月。

・「書評 Istvan Hont : *Jealousy of Trade International Competition and the Nation-State in Historical Perspective*」『イギリス哲学研究』第30号、pp.152-154、2007年3月。〔英文〕

・「書評 飯田裕康・出雲雅志・柳田芳伸編著『マルサスと同時代人たち』」『経済学史研究』49巻2号、2007年12月。

・「書評 Torre, Jose R.: *The Political Economy of Sentiment: Paper Credit and the Scottish Enlightenment in Early Republic Boston, 1780-1820*」『経済学史研究』50巻2号、pp.92-4、2009年2月。〔英文〕

・「書評 『ジェイムズ・ステュアートとスコットランド』(渡辺邦博著)」『社会思想史研究』第33号、pp. 165-9、2009年9月。

・「書評 Willie Henderson, *The Origins of David Hume's Economics*」『イギリス哲学研究』第35号、pp.112-3、2012年3月。

・「書評 Carl Wennerlind, *Casualties of Credit: The English Financial Revolution, 1620-1720*」『経済学史研究』54巻2号、pp. 74-6、2013年1月。〔英文〕

・「書評 坂本達哉『ヒューム 希望の懐疑主義 - ある社会科学の誕生』」『イギリス哲学研究』第36号、pp.77-9、2013年3月。

・「書評 村松茂美『ブリテン問題とヨーロッパ連邦——フレッチャーと初期啓蒙』」『経済学史研究』56巻1号、pp. 157-9、2014年7月。

・「書評 J.G.A.ポーコック著犬塚元監訳『島々の発見 - 「新しいブリテン史」と政治思想』」『社会思想史研究』第39号、pp. 258-262、2015年9月。

・「書評 A. L. Beier, *Social Thought in England, 1480-1730: From Body Social to Worldly Wealth*」『イギリス哲学研究』第42号、pp.78-80、2018年3月。

・「書評 梅津順一・小野塚知二編『大塚久雄から資本主義と共同体を考える コモンウィール・結社・ネーション』」『経済学史研究』60巻2号、pp. 119-120、2019年1月。

・「書評 Béla Kapossy, Isaac Nakhimovsky, Sophus A. Reinert, and Richard Whatmore (eds.), *Markets, Morals, Politics: Jealousy of Trade and the History of Political Thought*」『経済学史研究』63巻1号、pp. 62-3、2021年7月。〔英文〕

・「書評 木村俊道『想像と歴史のポリティックス - 人文主義とブリテン帝国』」『イギリス哲学研究』第45号、pp.48-51、2022年3月。

翻訳

・〔共訳〕I.ホント、田中秀夫監訳『貿易の嫉妬』昭和堂、pp. 84-114(担当箇所)、2009年5月。

その他

・「経済思想の過去と現在」『三田評論』No.1101、p.47、2007年5月。

・「シンポジウム II イギリス思想とヨーロッパの哲学 第 2 報告 17 - 18 世紀イギリスにおける公信用をめぐる議論とリシュリュー卿」『イギリス哲学研究』第 35 号、pp.184 -6、2012 年 3 月。[学会報告要旨]

学会・研究会報告

・「チャールズ・ダヴナントにおける統治と経済」、経済学史学会全国大会、1992年1月、京都産業大学。

・「チャールズ・ダヴナントの『信用』論」、経済理論史研究会、1993年5月、専修大学。

・「17～18世紀イングランドの政治算術と修辞学」、比較社会思想セミナー、2002年3月、東京都立大学。

・「チャールズ・ダヴナントにおける『お世辞』と政治算術」、日本イギリス哲学会関東部会、2002年11月、早稲田大学。

・「初期近代イングランドにおける古典修辞学と政治算術」、科研基盤研究 (A)「啓蒙と経済学」プロジェクト・第2回研究会、2004年10月、京都大学

・「レトリックを越えて - 修辞学と政治算術」経済学史学会第 69 回全国大会、2005 年 5 月、大阪産業大学

・‘The making of institutional credit in seventeenth century England’, 18th Conference of the History of Economic Thought Society of Australia, Macquarie University, Sydney, Australia, 2005 年 7 月。

・‘Quest for a ‘good’ fund – a prelude to the land-bank controversy’, 19th Conference of the History of Economic Thought Society of Australia, University of Ballarat, Ballarat, Australia, 2006 年 7 月。

・‘Continuity and discontinuity-the early stage of the land-bank controversy’, 11th Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought, Louis Pasteur University, Strasbourg, France, 2007 年 7 月 6 日。

・‘Registration and land bank projects’, 科学研究費基盤研究 (A)「啓蒙と経済学」プロジェクト・第 4 回研究会、京都大学、2008 年 1 月。

・‘Registration and credit in England 1660-1688’, 12th Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought, University of Economics, Prague, Czech Republic, 2008 年 5 月 17 日。

・‘Interest controversy in its context’, 21th Conference of the History of Economic Thought Society of Australia, University of Western Sydney, Sydney, Australia, 2008 年 7 月 10 日。

・‘What did Davenant learn from Richelieu and his France?’, 科学研究費基盤研究(A)「啓蒙と経済学」プロジェクト・第 7 回研究会、京都大学、2009 年 1 月 31 日。

・‘Charles Davenant on Richelieu’, 2nd Joint Conference ESHET-JSHET, Kyoto University, Japan, 2009 年 3 月 24 日。

- ・ ‘Law Reform, Registration and Credit in Seventeenth century England’, 22th Conference of the History of Economic Thought Society of Australia, the Fremantle Campus of The University of Notre Dame, Fremantle, Australia, 2009年7月16日。
- ・「ホント『貿易の嫉妬』をどう読むか」、科学研究費基盤研究(A)「啓蒙と経済学」プロジェクト 2009年度第1回研究例会、京都大学、2009年10月10日。
- ・『『貿易の嫉妬』にみるリアリズム - 経済ナショナリズムと国家理性論の再検討 - 」、社会思想史学会全国大会、神戸大学、2009年10月31日。
- ・ ‘Interest controversy reconsidered’, 科学研究費基盤研究(A)「啓蒙と経済学」プロジェクト・第11回研究会、京都大学、2010年1月30日。
- ・ ‘What was the issue in the land-bank controversy?’, リカードウ研究会 (第19回)、明治大学、2010年3月12日。
- ・ ‘Interest controversy in its context’, The 14th Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought, The Amsterdam School of Economics at the University of Amsterdam, Amsterdam, The Netherlands, 2010年3月26日。
- ・ ‘The ideal statesman: the influence of Richelieu on Davenant’s political thought’, 第32回近代思想研究会、慶應義塾大学、2010年6月5日。
- ・ ‘Continuity and discontinuity – the early stage of the land-bank controversy’, The Twenty-Third Conference of the History of Economic Thought Society of Australia, the Discipline of Economics, Faculty of Economics and Business, University of Sydney, 2010年7月7日。
- ・「千賀重義「平田清明の市民社会論——『市民社会と社会主義』を読み直す」へのコメント」現代経済思想研究会(第6回)、東洋大学、2010年9月11日。
- ・「17・18世紀イギリスにおける公信用をめぐる議論とリシュリュー卿」(シンポジウム「イギリス思想とヨーロッパの哲学」)日本イギリス哲学会第35回総会・研究大会、2011年3月29日、京都大学。
- ・ ‘Sir James Steuart on public credit’, The 15th Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought, Bogazici University, Istanbul, Turkey, 2011年5月21日。
- ・ ‘Interest Controversy, the second round’, The 16th Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought, Saint Petersburg State University, Saint-Petersburg, Russia, 2012年5月17日。
- ・ ‘What was the issue in the land-bank controversy?’ The 25th conference of the History of Economic Thought Society of Australia, Melbourne, Australia, 2012年7月7日。
- ・ ‘Quest for a ‘good’ fund – a prelude to the land-bank controversy’, 3rd ESHET-JSHET meeting, University of Corsica, Corte, France, 2012年9月14日。
- ・「17世紀イングランドにおける信用と基金」、科学研究費基盤研究(A)「野蛮と啓蒙—経済思想史からの接近」研究会 第8回研究会、京都キャンパス・プラザ、2013年1月26日。
- ・ ‘What was the issue in the land-bank controversy?’, The 17th Annual Conference

of the European Society for the History of Economic Thought, Kingston University London, United Kingdom, 2013年5月17日。

・セッション「初期近代グレート・ブリテンにおける信用の制度化をめぐる諸議論」(組織者 伊藤誠一郎)「17世紀イングランドにおける信用と基金」経済学史学会第77回全国大会、関西大学、2013年5月26日。

・「イングランドはオランダからなにを学ぼうとしたか?」(セッション「啓蒙・郷土愛・国民国家 - コスモポリタニズム・共和主義・ナショナリズム」)第38回社会思想史学会大会、関西学院大学、2013年10月26日。

・「鈴木康治 『消費の自由と社会秩序 - 18世紀イギリス経済思想の展開における消費者概念の形成』 現代経済思想研究会(第14回)、東洋大学、2013年6月1日。

・「J.G.A.ポークック著、犬塚元監訳『島々の発見 「新しいブリテン史」と政治思想』 経済理論史研究会、東洋大学、2014年1月25日。

・「水田洋監訳・杉山忠平訳『国富論』における credit の訳語について」アダム・スミスの会第一九一回例会、東京ガーデンパレス、2014年5月10日。

・「What should the English learn from the Dutch?», The 18th Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought, Université de Lausanne, Centre Walras-Pareto, Lausanne, Switzerland, 2014年5月29日。

・「Neighbour country, Holland: an ideal model to follow, or just an enemy?», The 27th conference of the History of Economic Thought Society of Australia, The University of Auckland, Auckland, New Zealand, 2014年7月11日。

・「Land-bank projects after the establishment of the Bank of England」、社会思想史研究会、キャンパス・プラザ京都、2015年1月24日。

・「A neighbour country, Holland: an ideal model to follow, or just an enemy?», The 19th Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought, Roma Tre University, Rome, Italy, 2015年5月16日。

・「Land-bank projects after the establishment of the Bank of England」、4th ESHET-JSHET joint conference, Otaru University of Commerce, Otaru, Japan, 2015年9月11日。

・「Institutionalising English economy: four controversies over the Dutch model」、ポリテイクナル・エコノミー研究会、東京大学本郷キャンパス、2016年3月24日。

・「Navy of Fishery: The Beginning of the Century-long Controversy」、社会思想史研究会、同志社大学今出川キャンパス、2016年12月24日。

・「Navy or fishery - the beginning of the early modern English economic controversy -', The 21st Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought, Antwerp, University of Antwerp, 2017年5月19日。

・「<民主主義>はなぜ失敗したか?」平成29年度山梨県民コミュニティカレッジ「哲学するとはなにか」(組織者: 渡邊浩史)、大月短期大学、2017年10月18日。

・「The Land Bank United, a failed project in 1696」、The 22nd Annual Conference of the

European Society for the History of Economic Thought, Madrid, Complutense University of Madrid, 2018年6月9日。

・‘Charles Davenant’s idea of credit’, The Conference of the History of Economic Thought Society of Australia, University of Sydney, 2019年10月4日。

・共通論題「経済学史の未来：経済の理論と歴史から」(経済学史学会創立70周年記念)、司会、および共通論題趣旨説明、経済学史学会第84回全国大会(オンライン)、2020年10月18日。

・「信用」は「貨幣」のあとにくるのか?」日本英文学会第93回大会、シンポジウム第3部門「信用文化と英文学」、Zoom ミーティング、2021年5月22日。

・「18世紀イギリスにおける‘credit’の論じられ方 - 思慮深さと制度 - 」日本イギリス哲学会関東部会第109回研究例会、中央大学、2022年7月24日。

・‘Adam Smith on banking’, The Conference of the History of Economic Thought Society of Australia, Melbourne, 2022年9月22日。

・「最近の初期近代イギリス金融史研究からの理論への問いかけ」日本金融学会歴史部会、早稲田大学、2023年4月15日。

・‘John Law’s idea of bank and his contemporaries’, The 26th Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought, Liege, Belgium, HEC, Universite de Liege, 2023年6月3日。

その他学会活動

コメンテーター(予定討論者)、講演

・古谷豊「ジェイムズ・スチュアートの貨幣論」についてのコメント、経済理論史研究会、2003年7月、慶應義塾大学

・Some comments on ‘Context and its Relevance for Adam Smith’s Theological and Teleological Views’ by Dr. James E. Alvey、近代思想研究会、2003年12月、慶應義塾大学

・「近世イギリス史研究会「合同300周年記念シンポジウム」林、村松、松園報告へのコメント」近世イギリス史研究会、2007年10月7日、立教女子学院短期大学、(コメンテーターとして)

・「Manuscriptを用いた研究スタイル」、経済学史学会 第5回若手研究者育成プログラム、晴海グランドホテル、2010年10月2日。

・‘Some comments on M. Paganelli’s paper, ‘Is a beautiful system dying?’ 慶應義塾経済学会報告会、2011年1月15日、慶應義塾大学。

・山倉和紀「19世紀初頭のアイランド為替論争と為替安定化政策の形成」へのコメント、経済学史学会第77回全国大会、関西大学、2013年5月25日。

他省略

国際学会司会

- ・ The 31st Annual Hume Society Conference At Keio University, Tokyo の Maria Pia Paganelli 報告の司会、2004年8月
- 他省略

その他

- ・ 経済理論史研究会、事務局、2005年11月～2006年10月。
- ・ 近代思想研究会、幹事、2006年6月～2019年7月
- ・ 経済学史学会、幹事、2011年4月～2017年3月、2019年4月～現在
- ・ 日本経済学会連合、評議員、2011年4月～2014年3月
- ・ 日本イギリス哲学会、理事、2014年4月～2020年3月
- ・ 日本イギリス哲学会、事務局長、2014年4月～2016年3月
- ・ 経済学史学会、事務局補佐、2017年4月～2019年3月
- ・ 経済学史学会、常任幹事・大会組織委員長、2019年4月～2021年3月
- ・ 経済学史学会、常任幹事・企画交流委員長、2021年4月～2023年3月
- ・ 経済学史学会、常任幹事・企画交流委員長、2023年4月～現在

在外研究

- ・ 2000年9月から2001年3月までイギリスのカーディフ大学歴史および考古学科 (Cardiff University, School of History and Archaeology) にて訪問研究員として研究に従事。

研究助成

- ・ 平成15年度～平成17年度、科学研究費若手研究B (研究課題「17-18世紀イギリスにおける金融システムの成立と『信託』のシステム」) を研究代表者として受給。
- ・ 平成16年度～平成18年度、科学研究費補助金・基盤研究 (A) (研究課題「近代イングランドとその近隣英語圏における啓蒙思想と経済学形成の関連の研究」、研究代表者：京都大学、田中秀夫) を研究分担者として受給。
- ・ 平成19年度、科学研究費補助金・基盤研究 (C) (研究課題「初期近代グレート・ブリテンにおける「制度化された信用」の形成と諸問題」、研究代表者として受給中。平成21年度まで。
- ・ 平成19年度、科学研究費補助金・基盤研究 (A) (研究課題「啓蒙思想と経済学形成の関連を問うーグローバルな視野から」、研究代表者：京都大学、田中秀夫) を研究分担者として受給中。平成21年度まで。

- ・平成22年度、科学研究費補助金・基盤研究(C)(研究課題「初期近代グレート・ブリテンにおける「初期近代イギリスにおける「制度化された信用」とその論争的展開」、研究代表者として受給中。平成24年度まで。
- ・平成23年度、科学研究費補助金・基盤研究(A)(研究課題「野蛮と啓蒙—経済思想史からの接近」、研究代表者：京都大学、田中秀夫)を研究分担者として受給中。平成25年度まで。
- ・平成25年度、科学研究費基盤研究(C)(研究課題「初期近代イギリスにおける信用の制度化をめぐる議論とその論争点」)、研究代表者として受給。平成27年度まで。
- ・平成28年度、科学研究費基盤研究(C)(研究課題「初期近代英国の経済の制度化をめぐる論争とオランダ・モデル」、研究代表者として受給。平成30年度まで。
- ・平成31年度、科学研究費基盤研究(C)(研究課題「初期近代ブリテンにおける紙券信用と基金をめぐる議論の継承について」、研究代表者として受給。令和4年度まで。
- ・令和5年度、科学研究費基盤研究(C)(研究課題「18世紀ブリテンの制度的信用をめぐる議論における道徳性・社会性の役割」)、研究代表者として受給。令和8年度までの予定。

社会活動

- ・講演「21世紀の価値観—イギリスの歴史から学ぶ—」2002年1月、大月短期大学公開講座。
- ・講演「いつでも楽しめる英語」2002年5月、老人大学(於大月市民会館)。
- ・講演「言語からみた文化—イギリス—」2002年11月、大月短期大学公開講座。